

空調タイムス

THE AIR-CONDITIONING TIMES

購讀料一九四四年四月一日發行 每週水曜日

12月

2017年〈平成29年〉

週刊

第2664号

日本熱源システム

CO₂冷凍ツトで花開く

A black and white portrait photograph of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

原田 克彦社長

「MOP28」でのHFC 85%削減は我々にとって
「ビジネスチャンス」とい
うのは日本熱源システム
(社長=原田克彦氏)、本
社・東京都新宿区市谷本
村町2-10の原田克彦
社長。同社はCO₂冷媒
の冷凍機ユニット「SU
PER GREEN」(ス
ーパーグリーン)とアン
モニア冷媒冷凍機「BL
U ASTERUM」(アル
アースターム)の2つの
自然冷媒製品を国内に展
開する。なかでも201
6年、市場が大きく開花
したのは「スーパークリ
ーク」だ。3月には岡山
県の鶏肉加工工場の急速
凍結装置に納入。また環
境省の自然冷媒機器普及
促進事業の補助金が採択
され、4件の冷凍冷蔵倉
庫で実績を積んだ。

「CO₂液循環冷凍システムが先行する中、「スパークリー」は高圧と低圧の2種類の圧縮機を組み合わせたブースター方式によるCO₂単独冷媒の冷凍システムとして注目を集めた。NH₃/CO₂システムより安価に導入でき、補助金を活用すればR22からプロン機に更新するより低コストで自然冷媒に転換できる。液側の圧力もR410Aと同程度であり、CO₂冷媒特有の施工の難しさはない。そして既存設備を運転しながら更新できるのも大きな特長だ。庫内の商品を移動させずに施工したことでもコスト削減の更新工事を実現した。

合いが寄せられるように
なったという。「倉庫の施
主はアーモニアを使わな
いCO₂単独の冷媒とい
う感じで注目してくれて

いる。また全国各地で大きな地震が続発しており、水道インフラの復旧に時間がかかることから空冷式が再評価され、そ

の面でも注目されてい
る。 同社では2017年、
冷凍冷蔵倉庫業界にタ
ゲットを絞り、「スープー
リーリン」を発表す
る。

の受注に対応すべく滋賀工場を再拡張する計画。原田社長は「CO₂の分野を確立し、確実に刈り取れるよう体制を整えて

冷凍冷蔵倉庫の冷凍機は2020年の生産停止は控えたHFCFC-22(R22)からの冷媒転換が進む。補助金を活用した自然冷媒機器ではNH₃

計画している案件があるり、既に相当数のプロジェクトを進めている」(同)。北海道と青森県で採択されたのをきっかけに、全国各地から引き合いが寄せられるようになつたという。「倉庫の施主はアンモニアを使わないので、CO₂単独の冷媒といふことで注目してくれて

「空冷式が再評価され、そ
に時間がかかることから
大きな地震が続発してお
り、水道インフラの復旧
する。また全国各地で
いる」。

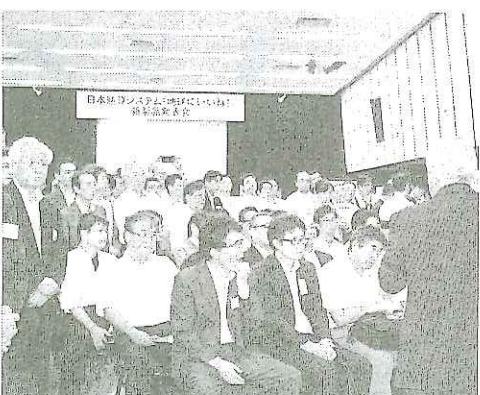
の面でも注目されてい
る。

同社では2017年、
冷凍冷蔵倉庫業界にターニ
ゲットを絞り、「スーパー

9月16日、都内で開
CO₂冷媒冷凍機の
関心が寄せられた

定。低コストでの冷媒転換、営業しながらの更新といったメリットを訴求し、冷冻冷蔵倉庫業界でさらなる実績作りを目指す。なお、CO₂冷冻機の受注に対応すべく滋賀工場を再拡張する計画。

CO₂冷凍ユニットで花開く R22からの更新で倉庫業界が注目



9月16日、都内で開かれた新製品発表会。CO₂冷媒冷凍機のコーナーには特に高い関心が寄せられた

「グリーン」の普及を推進
そへく十画哉。